

《体育科における授業改善推進プラン》

I 体育科における平成30年度授業改善推進プランの検証

〈取り組みにおける成果と課題〉

- 低 ◎ 様々な場を用意し、いろいろな動きが経験できるようにしたため、児童が様々な動きの運動遊びに取り組むことができた。また、意欲的に取り組む姿が見られた。
- ◎ ゲームや遊びを通して、友だちと仲よく運動している子を称賛したり、作戦タイムを取り入れチームプレイを意識させたりして、協力する態度を十分育成できた。
- ▼ 集団行動についての意識は個人差がある。
- ▼ 運動の経験が少ない児童が多く、技能面に差がある
- ◎ 運動に進んで取り組むことができた。用具の片付けや準備を友達と一緒にできた。
- ◎ 活動する場を工夫することで、児童が様々な動きの運動遊びに取り組むことができた。
- ▼ 場の安全に気を付け、きまりを守ることが徹底できなかった。
- ▼ さらに運動の楽しさを味わいながら活動できるようにしたい。
- 中 ◎ 全員が楽しめるように規則の工夫をしたり、児童同士で運動を見合ったりできるように1単位時間を工夫したことで、ほとんどの児童が運動を楽しむことができた。
- ◎ 運動能力の個人差に対応するために手立てを用意したことで、成功体験を積み重ね意欲的に運動に取り組む児童が増えた。
- ▼ 児童同士で運動を見合い、励まし合うことが難しい児童もいる。
- ▼ 運動技能の習得には、個人差があり、特に発展的な学習の場が不十分な場合がある。
- ◎ 様々な運動に取り組む場を設定したことで、運動に対する関心・意欲が高まった。
- ◎ 技能の個人差に応じた場面を用意したことで、苦手を克服しながら身に付けられた。
- ▼ 運動技能の個人差が大きくなってきている。
- ▼ 運動のポイントを意識したり工夫したりしながら活動できる児童が少ない。
- 高 ◎ 有効な声掛けにより、運動に意欲をもって取り組んだ。
- ◎ カ一杯運動に取り組む児童が多い。
- ▼ 運動の楽しさや技能の高まりを実感できない児童が見られた。
- ▼ 各領域で、児童の技能に差がある。器械運動は、全体的に技能の習得が不十分である。
- ▼ 適切に自己のめあてを設定し、互いに教え合うことが不十分である。
- ◎ 学習カードを効果的に活用することで個人のめあてをもち、主体的に学習に取り組むことができた。
- ◎ ボール運動では、ゲームの中で技能を身に付けることが難しかった。
- ◎ 器械運動については、めあてや技能に応じた場を設定することで意欲的に練習している児童が増えた。
- ▼ 保健分野の学習では、学習と実生活を関連づけて考え、自らの生活習慣を整える意識がもてていない児童が多い。
- ▼ 器械運動領域の学習について、学習意欲、技能に個人差が大きい。
- ▼ 学校行事と関連させ、持久力の向上にも努めたが、十分な成果を得られていない。

II 体育科における現状の分析

観 点 別 学 習 状 況 の 分 析	低	<p>1 運動や健康・安全への関心・意欲・態度</p> <p>◎運動への関心は高い。 ▼きまりを守り運動に取り組むが、勝敗を素直に受け入れられない児童がいる。</p> <p>2 運動や健康・安全についての思考・判断</p> <p>▼自己のめあてを設定し、互いに教え合う機会を設ける必要がある。 ▼きまりの工夫について話し合う時間を設ける必要がある。</p> <p>3 運動の技能</p> <p>▼運動経験や技能において個人差が見られる。</p>
	中	<p>1 運動や健康・安全への関心・意欲・態度</p> <p>◎運動への関心は高いが、内容によって関心の差がある。 ◎運動の約束や規則を守り、自分たちで協力・協調する態度が見られる。 ▼勝敗を素直に受け入れられない児童がいる。</p> <p>2 運動や健康・安全についての思考・判断</p> <p>▼規則や運動のポイントを意識したり、工夫したりしながら活動できる児童は少ない。 ▼自己のめあてを設定し、互いに教え合う機会を設ける必要がある。</p> <p>3 運動の技能</p> <p>▼個人的な種目では、運動能力の面で差が見られる。 ▼器械運動での運動技能の習得が不十分であり、個人差が大きい。</p> <p>4 健康・安全についての知識・理解</p> <p>◎学習内容は理解しており、体にとっていいこと・悪いことの判断はできる。 ▼自ら体調管理をしたり、事故やけがなどに対処したりする力は弱い。</p>
	高	<p>1 運動や健康・安全への関心・意欲・態度</p> <p>◎運動への関心は高いが、学年が進むにつれて、内容によって関心の差が大きくなる。 ◎ルールを簡易化することで、進んでボール運動に取り組める傾向にある。 ▼器械運動については学習意欲が低下する傾向にある。</p> <p>2 運動や健康・安全についての思考・判断</p> <p>▼めあてを設定し、自己の課題に適した場所で練習に取り組むことができていない。 ▼チームの特徴に応じた作戦を考えたが、達成するために協力や実行することが難しかった。 ▼自己の能力に適した課題の解決の仕方、運動の行い方を工夫できていない。</p> <p>3 運動の技能</p> <p>▼体力テストの結果には、持久力や敏捷性、投力に欠ける傾向が見られる。 ▼器械運動で、運動技能の習得が不十分であり、個人差が大きい。</p> <p>4 健康・安全についての知識・理解</p> <p>◎学習内容は理解されている。 ▼学習した内容を実生活に活かし切れていない傾向がある。</p>

III 授業改善のポイント

- 1 運動についての関心・意欲・態度を向上させる。**
 - ・運動の楽しさ（特性）を味わわせるような授業を展開する。
 - ・友達と工夫したり励まし合ったりできるようなペア・グループでの活動を取り入れる。
- 2 思考・判断（動きや遊び方、活動の場を工夫できる）を向上させる。**
 - ・様々な条件の場を設定し、掲示物等で遊び方や活動の仕方を提示する。
 - ・良い動きをしている児童を紹介し、全体に広める。
- 3 児童のつまづきを解消し、運動技能を図る。**
 - ・様々な場を用意し、いろいろな動きが経験できるようにする。
 - ・場や動きに名前をつけ、運動遊びを通して楽しみながら取り組めるようにする。
- 4 保健の学習内容を確実に理解し、実生活に活かすことができるようにする。**

IV 体育科の授業改善策

低	<p>1 運動についての関心・意欲・態度を向上させるために</p> <ul style="list-style-type: none">・運動の楽しさ（特性）を味わわせるような授業を展開する。・気を付けることやきまりを掲示物や目印を付けて視覚的にも分かるようにする。・「楽しいな」「もっとやりたいな」と思うような単元名や場を設定する。・友達と工夫したり励まし合ったりできるようなペア・グループでの活動を取り入れる。 <p>2 動きや遊び方を工夫できるようにするために</p> <ul style="list-style-type: none">・様々な条件の場を設定し、掲示物等で遊び方を提示する。・良い動きをしている児童を紹介し、全体に広める。 <p>3 運動技能の習得を図るために</p> <ul style="list-style-type: none">・様々な場を用意し、いろいろな動きが経験できるようにする。・運動する場や動きに名前をつけ、運動遊びを通して楽しみながら取り組めるようにする。
中	<p>1 様々な運動に対する意欲をより高めるために</p> <ul style="list-style-type: none">・様々な運動に取り組む場を設定し、運動の楽しさを味わわせるような授業の工夫を行う。 <p>2 規則の工夫をしたり、技能を高めようとしたりするために</p> <ul style="list-style-type: none">・毎時間シェアリングの時間を設け、友達の考えを聞いて新しい動きに挑戦したり、ポイントを意識して取り組んだりする時間を設定する。・課題達成に向け、児童自ら適切なめあてを設定できるよう、学習カードの内容（運動の技能・遊び方）をスモールステップで示す。 <p>3 児童のつまずきを解消し、技能を高めるために</p> <ul style="list-style-type: none">・運動のポイントを意識した指導や助言をする。また、必要であれば掲示物を用意し、・児童が自分でポイントを確認できるようにする。・課題別学習の時間や児童で互いに教え合う時間を設定する。 <p>4 保健の学習内容を実生活に活かすことができるようにするために</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の心身の発達と、生活習慣や生活環境の関連を理解させ、養護教諭や保護者と連携する。・学習内容について、学校生活・家庭生活などで活用できるワークシートや資料などを作成するし、児童に記録を取らせた内容を授業の中で取り上げ、自ら生活習慣や生活環境を整える意識をもてるよう指導する。
高	<p>1 運動についての関心・意欲・態度を向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none">・教師が技能のポイントを正しく理解し、個の課題に応じた指導をする。・楽しい体育の学習を展開することで、運動の日常化を図れるようにする。・意欲的に取り組めるように、段階に応じた場を設定したり、用具を活用したりする。 <p>2 思考・判断を向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none">・タブレット等で運動の様子を撮影し、その場で児童に確認させることで、運動の技能の向上を図る。・課題解決に向け、児童自ら適切なめあてを設定できるよう、学習カードの内容（方法・場）をスモールステップで示す。 <p>3 児童のつまずきを解消し、運動技能を図る。</p> <ul style="list-style-type: none">・個人の技能と集団的技能が身に付くような練習方法やミニゲームに取り組む。・技に関連した易しい運動を準備運動で取り組ませたり、今できる技で動きを組み合わせる演技したりすることができるよう配慮する。・運動量、運動の質を確保して、運動に取り組ませる。 <p>4 保健の学習内容を確実に理解し、実生活に活かすことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の心身の発達と、生活習慣や生活環境の関連を理解させ、養護教諭と連携しながら、関連する学習内容について、学校生活と家庭生活で活用できるワークシートや資料などを作成する。・学習と実生活を関連付けて考え、自ら生活習慣を整える意識がもてるよう指導する。